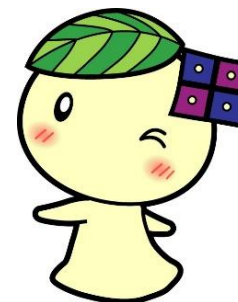


令和4年度 生野区の取組み（素案） （こどもの未来部会：抜粋分）

令和3年度生野区区政会議
第2回こどもの未来部会



令和4年1月19日（水）



目 次

・令和4年度 生野区運営方針(素案)概要	3
・子育てにやさしく教育につよいまち への課題	4
・令和4年度 主な取組	
・(1-1)ライフステージに応じた子育て支援の充実	5
・(1-1)子育てが楽しくなるまちづくり	6
・(2-1)次世代の学校づくり(学校配置の見直し)	7
・(2-2)次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現)	8
・(3)まちの教育力を上げる	9



令和4年度 生野区運営方針(素案)

区の目標(何をめざすのか)

すべての区民に「居場所」と「持ち場」のあるまち

区の使命(どのような役割を担うのか)

- ・すべての区民が「居場所」で安心して暮らせるセーフティネットの役割
- ・すべての区民が「持ち場」を持てる市民参画の機会拡大
- ・区の未来を描き実行をしていく「未来志向のまちづくり」の推進

令和4年度 区運営の基本的な考え方(区長の方針)

「居場所」と「持ち場」のあるまちとは、区民ひとり一人が安心してつながりの中で暮らし、まちの活動の担い手としての役割を持っているまちである。

少子高齢化の最先端のまちとして課題解決を進めると同時に、人口や地域活動の担い手が増える「持続可能なまちづくり」を目指していく必要がある。また、「来たい、住みたい、住み続けたい生野区」となるための“未来志向のまちづくり”を進めていくため、「生野区政3本柱」を軸にして運営を行う。

【生野区政3本柱】

「子育て・教育環境の整備」…教育環境の整備やつながりの場づくりを通じて、子育て世代に選ばれるまちとなる。

「空き家対策」…空き家の建て替えやエリアリノベーションに官民協働で取り組み、生野らしさを活かしたまちの魅力をつくる。

「多文化共生」…多国籍の外国人と共生し「世界につながる生野区」として、まちの活性化につなげる。

これらの実現のためには職員が部署を超えて知恵を出し合い、地域・企業・各種団体と一緒に「生野の未来」を考え、今後ますます活用が求められるICTや公民連携による課題解決に取り組み、課題最先端エリア・生野区として挑戦し続け、「持ち場を広げる」を合言葉に、ひとりも取りこぼさないセーフティネットの構築と、未来のまちの姿を見据えた区政運営を行う。

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題 2

子育てにやさしく、教育につよいまち

めざすべき将来像（最終的なめざす状態：概ね10～20年間に念頭に設定）

生まれてから義務教育終了に至るまで「ひとりも取りこぼさない」仕組みにより、子育てしたい、教育を受けさせたいと思えるまち

主なSDGsゴール



現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

◆こども・子育て環境

<区内人口の推移>

・区内人口は減少傾向にあるとともに、少子化が急速に進行している。
平成17年国勢調査 138,564人 うち15歳未満人口割合 11.4% (15,744人)
平成22年国勢調査 134,009人 うち15歳未満人口割合 10.6% (14,205人)
平成27年国勢調査 130,167人 うち15歳未満人口割合 9.2% (11,982人)

<こども・子育て支援に関するニーズ等調査（平成30年度）>

・子育てを「つらいと感じる」「少しつらいと感じる」との回答が、就学前児童で16.7%
就学児童で12.0%
・子育てが地域の人や社会に支えられていると「感じない」と回答した人が、就学前児童で31.6%、就学児童で27.7%。

<区政に関する区民アンケート>

・子育てのしやすいまちであると「感じる」「どちらかと言えば感じる」と回答した人が（H30）49.6%、（R1）52.2%。（R2）42.6%

<子どもの生活に関する実態調査（平成28年度）>

・こどもに絵本を読み聞かせていると回答した人（5歳児保護者）が63.2%。

◆学校教育環境

・区内小学校の7割以上が教育環境に課題のある小規模校となっている。（学年あたりの平均学級数：本市平均2.1学級、区1.4学級）
・学力課題が固定化している学校が多い。

<子どもの生活に関する実態調査（平成28年度実施）>

・「学校のある日、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強しているか」との設問に対し「まったく勉強しない」と答える子どもの割合
中2：区14.8%、市13.6% 小5：区7.1%、市6.8%
・自分の将来の夢や目標を「持っている」「どちらかというを持っている」と答える子どもの割合
中2：区61.0%、市63.0% 小5：区84.1%、市84.1%

要因分析

◆こども・子育て環境

・少子化、核家族化が進んでいる中、ニーズ調査等にも出ているように、安心して子育てできる環境が整っていない、子育てが地域や社会に支えられていないと感じられており、育児不安やストレスを感じた際に相談できる相手がおらず、孤立化してしまう危険がある。
・絵本の読み聞かせが少なくなることにより、親子のコミュニケーションの希薄化やこどもの知的好奇心の発育不全につながっている。

◆学校教育環境

・小規模校については、昭和50年と比べて区内の児童・生徒数は約74%減少している一方、学校配置の見直しが進んでいないため、学校あたりの児童生徒数が減少し、小規模校化が進む要因となっている。
・学力課題に対して、自主学習習慣の確立を含め学校外での学びの機会が不足しており、学校の取組だけではこどもに多様な学びの機会を十分に提供することが難しい。

課題

◆こども・子育て環境

・安心して子育てのできる環境を整えるため、子育て情報が容易に収集できる環境を整備するとともに、孤立化しがちな子育て世帯などが気軽に相談や交流できるような機会を提供するなどの支援を図っていくことが必要。
・出生率が低く、少子化が急激に進行している現状を改善し、次世代を担う若い世代を呼び込むためには、区民だけでなく、区外の方々にも安心して子育てのできる環境をアピールすることが必要。
・絵本読み聞かせの必要性や楽しさを知る機会を提供する等により、親子のコミュニケーションやこどもの知的好奇心を高める必要がある。

◆学校教育環境

・学校の配置を見直して、小規模校を解消し、適正な教育環境を実現する必要がある。
・学校における取組への支援と課外での学びの機会を確保し、こどもへの多様な学習機会を増やすことが必要である。

具体的取組 2-1-1

ライフステージに応じた子育て支援の充実

計画（取組内容）

2決算額(3,560千円) 3予算額(4,457千円) 4算定見込額(6,270千円)

プロセス（過程）指標 （取組によりめざす指標）

◇妊娠から出産、乳幼児期から就学期にわたる各ライフステージをトータルで支援

・妊娠期から、保健師との顔の見える関係づくりによる継続した支援を行う。

（大阪市版ネウボラ）

・子育て支援機関等と連携し、適切な機関につなげる。

「生野区子育て支援会議」を開催し、情報共有・事例検討等連携を進める（6回開催）

・各種こどもの居場所のネットワーク会議に参加し、地域団体等の連携を進め、子育て世帯への支援体制強化に取り組む。

◇区民が安心して、子どもを産み育てることができる環境づくり

・発達障がい児等支援

各健康診査や子育て相談時に、発達障がい児またはその疑いのある子を早期に発見し、療育支援に取り組む。

健診フォロー教室に参加した養育者について、こどもの養育に参考になったなど肯定的に感じた養育者の割合90%以上

【撤退・再構築基準】

上記割合が60%未満であった場合、事業を再構築する

前年度までの主な実績

・保健師の似顔絵と担当地域を示したチラシをR3.4月広報誌に掲載及び、母子手帳交付時に配布

・1歳6か月児健診フォロー教室「すくすく」：6組(R2) R3は新型コロナ感染拡大防止の為中止

・生野区子育て支援会議：4回(R2) 3回(R3.8月末)

・こどもの居場所に関する意見交換会：2回(R2) 1回(R3.8月末)

・健診フォロー教室等に参加した養育者について、こどもの養育に参考になったなど肯定的に感じた養育者の割合：100%(R2) 100%(R3.8月末)

具体的取組 2-1-2

子育てが楽しくなるまちづくり

計画(取組内容)

2決算額(679千円)3予算額(1,313千円)4算定見込額(1,313千円)

プロセス(過程)指標
(取組によりめざす指標)

◇子育てを支援することに加え、子育てがより楽しくなるような仕掛けづくり

- ・「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」
絵本サポーターの発掘・育成
生野区絵本ダイアリー「いくみんのほんだな」の発行
- ・「子育て応援イベント いくのっ子広場」(1回以上開催)
- ・子育て講演会の開催(1回以上開催)

◇まちぐるみ子育て宣言

子育て宣言に沿った「まちぐるみの子育て」の実施地区を拡大

◇生野のまちで子育てしたくなるよう積極的な情報発信

「生野区子育て情報サイト"いくの de 育～の"」などを活用して
地域の子育て支援情報などを効果的に発信するとともに、
更なる充実を図る。



◇「子育て応援イベント いくのっ子広場」

- ・子育て応援イベント参加者数の平均が前年度以上

◇「生野区子育て情報サイトでの積極的な情報発信」

- ・生野区子育て情報サイトのアクセス数を前年度以上

【撤退・再構築基準】

- ・イベント参加者数の平均が前年度の75%以下であった場合事業を再構築する。
- ・上記アクセス数が前年度75%以下であった場合、事業を再構築する。

前年度までの主な実績

- ・いくのっ子おさんぽラリー(子育て応援イベント)
参加者720名(R2) 901名(R3)
- ・生野区子育て情報サイト
アクセス数8,149件(R2) 3,805件(R3.9月末)【計測不能により8月分除く】

- ・絵本ダイアリー「いくみんのほんだな」作成(R2)配布(R3)
- ・子育て講演会オンライン開催 1回(R2) 開催予定(R3)
- ・「生野区まちぐるみ子育て宣言」賛同団体 96団体

具体的取組 2-2-1

次世代の学校づくり(学校配置の見直し)

計画(取組内容)

2決算額(一 千円)3予算額(13,808千円)4算定見込額(76,226千円)

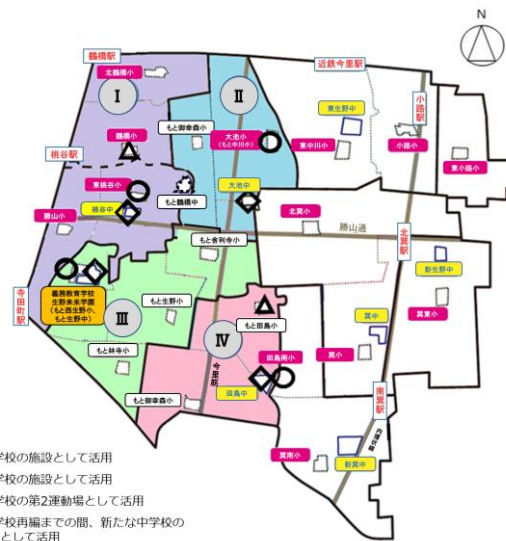
プロセス(過程)指標
(取組によりめざす指標)

- ・こどもたちのより良い教育環境づくりに向けて、「桃谷中学校区 学校再編整備計画(案)」を作成する。
- ・学校再編に伴う環境整備
児童の安全確保のため、児童の安全確保と居場所づくり事業や、通学路の安全対策等を行う。

大阪市学校活性化条例等の規定に基づき、学校適正配置対象校の学校再編整備計画(案)の作成。

生野区西部地域学校再編の概要

I	新小学校 (東桃谷小学校地に開校)	北鶴橋小 鶴橋小 東桃谷小 勝山小
	H30.4 桃谷中学校 (勝山中学校地に開校) (鶴橋中学校校地⇒第2運動場)	鶴橋中 勝山中
II	R3.4 大池小学校 (御幸森小+中川小) (中川小学校地に開校)	御幸森小 中川小 舍利寺小(一部)
	R4.4 (大池+舍利寺)	
	R4.4 大池中学校	大池中
III	R4.4 義務教育学校生野未来学園 (西生野小学校校地及び生野中学校校地に開校)	林寺小 生野小 西生野小 舍利寺小(一部)
		生野中
IV	R4.4 田島南小学校 (田島中学校地に開校) (田島小学校校地⇒第2運動場)	田島小 生野南小
	田島中学校	田島中



【撤退・再構築基準】
上記ができなかった場合、進め方を再構築する。

前年度までの主な実績

【令和3年度】

- ・大池小学校開校(3年4月開校:御幸森小・中川小の第1次再編)
- ・大池中学校区 学校適正配置検討会議での意見交換(4回開催予定)
- ・生野中学校区 学校適正配置検討会議での意見交換(4回開催予定)
- ・田島中学校区 学校適正配置検討会議での意見交換(7回開催予定)

具体的取組 2-2-2

次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現)

計画(取組内容)

2決算額(4,220千円)3予算額(7,336千円)4算定見込額(4,193千円)

プロセス(過程)指標
(取組によりめざす指標)

①学び支援事業

児童の学力状況の把握および自主学習習慣の確立や健康・体力の保持増進を目的に、模擬検定等の受検を学校が活用できる機会を提供する。

・区内小学校・義務教育学校 14校

②民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」

生徒の自尊感情を醸成し、将来の夢や目標を持ち、その実現に必要な「自ら学ぶ力」と自主学習習慣の定着、基礎学力向上のための取組として、民間事業者等による課外授業を行なう。また、事業者と学校の連携を図り、支援が必要な生徒を適切な支援につなぐ。

・7教室

③生きるチカラまなびサポート事業

「キャリア教育」や「性・生教育」を支援する「生きるチカラまなびサポーター」を学校の要請に応じて派遣する。

・区内全市立小・中・義務教育学校



①事業実施後アンケートで学習意欲を問う設問について、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上。

②事業参加前後アンケートで
・「勉強へのやる気がある」という設問に対し、肯定的な回答する生徒の割合を増。
・「1日にどれくらいの時間、学校以外で学習をしていますか」という設問に対し、「30分より少ない」、「全くしない」と回答する生徒の割合を半減。

③事業実施後アンケートで「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問について、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」といった否定的な回答をした受講者の割合を小学校、中学校とも6.0%未満。

【撤退・再構築基準】

①肯定的な回答をする児童の割合が50%未満の場合、
②否定的な回答する生徒の割合が75%以上の場合、・「30分より少ない」、「全くしない」と回答する生徒の割合が75%以上の場合、
③否定的な回答の受講者の割合が小学生:7.1%、中学生:8.9%を超える場合、
それぞれ事業を再構築する。

前年度までの主な実績

【令和3年度】

①全18小学校中15校で実施予定

②生野中学校・巽中学校・生野区民センターで「いくの塾」を開講、受講者数34名。大池中学校、東生野中学校、田島中学校、新生野中学校で「みらい塾」を開講、受講者数62名(令和3年9月までの実績)

③10小中学校に15回の講師派遣(令和3年9月末現在)

具体的取組 2-2-3

まちの教育力を上げる

計画（取組内容）

2決算額(476千円)3予算額(1,168千円)4算定見込額(1,079千円)

プロセス（過程）指標
（取組によりめざす指標）

◇地域住民間の交流を促進することにより、コミュニティづくりに寄与し、生涯学習の推進を目的として、自主的な講習・講座等の学習機会の提供及び拡充や、文化・学習活動、発表、交流の場の提供をはかる。

- ・区生涯学習ルームフェスティバルの開催
- ・生涯学習ルームの開設
- ・生涯学習推進員連絡会との連絡調整会議の開催
- ・生涯学習ルームでの作品発表の場として、区役所等（区民ギャラリー等）での作品展示の実施



生涯学習ルームフェスティバル

生涯学習ルーム参加者アンケートの「区の生涯学習事業で学んだ内容を、地域行事等に活かすことができましたか」の問いに対し「できた」と答えた割合：60%以上

【撤退・再構築基準】
上記割合が40%未満の場合、事業を再構築する。

前年度までの主な実績

【令和3年度】

- ・生涯学習推進員連絡会の開催：3回
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より中止（休止）となった区生涯学習フェスティバルや生涯学習ルームの補完事業（作品発表の場）として区役所（区民ギャラリー）において、作品展示を実施。

